

平成30年度 事業報告

平成30年3月1日から平成31年2月28日までの事業報告

1 会員状況

1.1 法人会員及び団体会員

級 種	平成30年度末	平成29年度末	増 減
1 級	9 社	9 社	±0 社
2 級	4 社	4 社	±0 社
3 級	19 社	20 社	-1 社
4 級	33 社	33 社	±0 社
5 級	75 社	70 社	+5 社
計	140 社	136 社	+4 社

1.2 個人会員

種 別	平成30年度末	平成29年度末	増 減
正会員	958 名	1001 名	-43 名
(内・名誉会員)	9 名	9 名	±0 名
(内・永年会員)	32 名	30 名	+2 名
学生会員	64 名	80 名	-16 名
アジア海外会員	21 名	15 名	+6 名
アジア海外学生会員	2 名	2 名	±0 名
計	1045 名	1098 名	-53 名

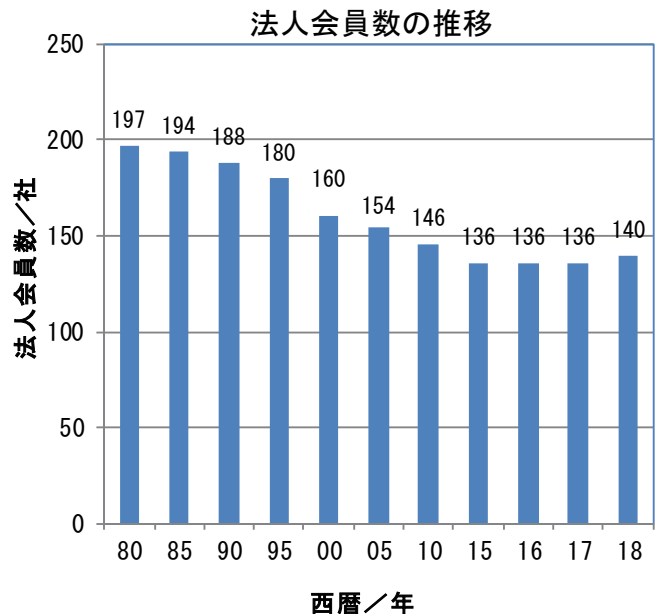
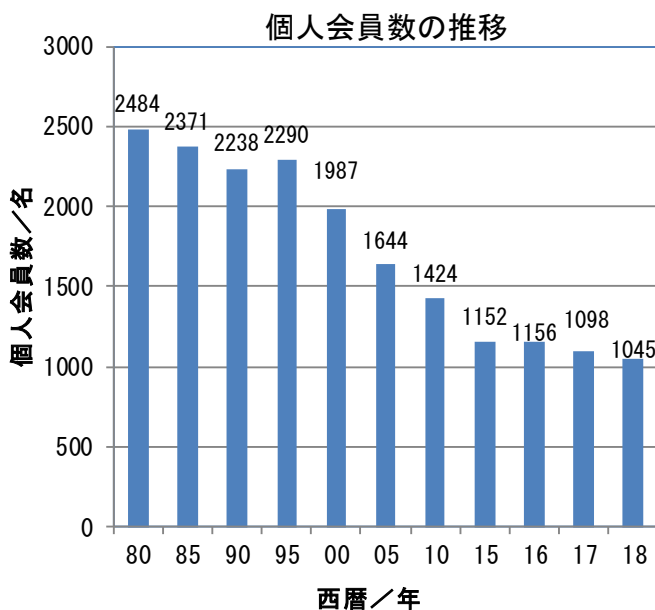
1.3 名誉会員 (9名)

阿部 正彦 池田 功 伊藤 俊洋 荻野 圭三 北原 文雄 島崎 弘幸
田嶋 和夫 常盤 文克 二木 鋭雄

1.4 日本油化学会フェロー (11名)

石上 裕 今栄東洋子 岩橋 槇夫 岡崎 三代 佐藤 清隆 菅野 道廣
妹尾 学 武田 徳司 師井 義清 山根 恒夫 Ching T. Hou

1.5 会員数の推移 (個人・法人)



2 会務

2.1 総会

第64回定時総会を、平成30年4月23日、油脂工業会館9階会議室で開催した。委任状提出者、書面による表決者を含めて95名の社員（代議員）の出席を得て議案を審議した。平成29年度事業報告及び決算案が審議され、原案通り可決・承認された。また、役員退職慰労金支給規則の改定が審議され、原案通り可決・承認された。さらに、平成30年度の役員（理事2名）の選任が行われた。

ひきつづき、推戴・表彰式が行われ、つぎの各氏が推戴・表彰された。

- ① 日本油化学会名誉会員に、東京理科大学総合研究院教授 阿部 正彦 氏が推戴された。
- ② 日本油化学会フェローに、名古屋大学名誉教授 山根 恒夫 氏が推戴された。
- ③ 日本油化学会功績賞が次の各氏に贈呈された。

元大阪工業大学教授 中辻 洋司 氏

名古屋工業大学名誉教授 多賀 圭次郎 氏

- ④ 平成29年度日本油化学会工業技術賞が、株式会社資生堂 宮原 令二 氏に贈呈された。
- ⑤ 平成29年度日本油化学会進歩賞が、ライオン株式会社 小倉 卓 氏に贈呈された。
- ⑥ 第9回日本油化学会女性科学者奨励賞が、神奈川工科大学教授 清瀬 千佳子 氏に贈呈された。

つづいて、東京理科大学名誉教授 大島 広行 氏より演題「DLVO理論の誕生と発展」で講演を頂き総会に関するすべての行事が終了した。総会後の懇親会は、ラグナヴェール TOKYO で開催され、約60名が出席した。

2.2 理事会

理事会は6回開催し、平成29年度決算案の承認、理事の中から平成30年度会長、副会長、常務理事の選定、運営委員長、各業務委員長、各支部長、各専門部会長等の委嘱、日本油化学会功績賞、女性科学者奨励賞及び日本油化学会学会賞等の承認、2020年度(第59回)年会開催地の決定及び実行委員長の選任等、重要案件について審議し決議した[出席理事 延71名、出席監事 延15名]。別に、定款第34条に基づく決議(書面による審議)を2回開催し、内閣府に定期的に提出する書類(平成29年度事業報告等に係る提出書類等および平成31年度事業計画等)を承認した。また、2022年に迎える日本油化学会創立70周年の記念事業企画趣意書と準備委員会の設置を承認した。

2.3 運営委員会及び業務委員会等開催状況

運営委員会を5回、支部長連絡会を1回開催した。なお各業務委員会等の開催数は次のとおりである。

総務委員会	4回	ホームページ更新委員会	3回
財務委員会	2回	国際交流委員会	1回
企画・部会統括委員会	3回	企画・部会統括委員会全体会議	2回
規格試験法委員会(含小委員会)	8回	学会賞等選考委員会	2回
編集委員会(オレオサイエンス)	5回	役員等候補者推薦委員会	2回
編集委員会(JOS)(メール審議)	1回	学術専門委員会	1回
年会改革推進委員会	1回	功績賞等推薦委員会	2回

運営委員会は、将来構想委員会の提言をもとに年会改革を進めることにより、当会の継続的な活性化・財務基盤の安定を図るべく検討を進め、次期年会よりできることから改革案を実施することとした。総務委員会は、諸規則類の見直しを進める一方、ホームページのリニューアルを完成した。第2段階として支部・部会等のホームページのリニューアルに着手した。財務委員会は、平成29年度決算(案)を理事会に上程した。また平成31年度予算書(案)を理事会に上程するとともに、平成30年度決算(案)を作成した。企画・部会統括委員会は、フレッシュマンセミナーを企画・開催した。また、アドバンスセミナーの見直しを行い、平成29年度からスタートした実践講座(油脂・界面)を本年も開催した。規格試験法委員会は、『基準油脂分析試験法(2018年増補・改訂版)』を刊行し、2013年版から5年の間に進展し

た分析技術の進歩を取り入れた試験法を設定し、またオレオサイエンスに掲載してその普及に努めた。さらに、各編集委員会は、「JOS」誌及び「オレオサイエンス」誌の編集・発行（Web 上公開も含む）を行った。

3 事業報告

3.1 (公1) 研究成果の公開，人材教育，研究の奨励及び業績の表彰を行う事業

3.1.1 研究成果の公開

3.1.1.1 第57回日本油化学会年会／JOCS-AOCS Joint Symposium 2018

第57回日本油化学会年会実行委員長の戸谷 永生 / 小野 大助， JOCS-AOCS Joint Symposium 担当の 妻鳥 正樹を中心に実行委員会を組織し，平成30年9月4日（火）～6日（木）に神戸学院大学有瀬キャンパスに於いて第57回日本油化学会年会，JOCS-AOCS Joint Symposium 2018 を同時開催した。

年会初日の9月4日は台風21号が関西地方を直撃したため中止としたが，参加者は500名，講演の合計が223件となった。Plenary講演は，北海道大学の宮下 和夫 先生による「魚油の酸化と抗酸化：自然からまなぶもの」であった。教育講演として明石市立天文科学館の井上 毅 先生が「日本人の「時」意識の変遷」を，特別講演として菊正宗酒造記念館の朝井 孝治 先生が「お酒の四方山話」を講演された。また，マスターズクラブ講演会，界面科学部会シンポジウムも開催された。一方，「産学官シーズとニーズのマッチングシンポジウム」と題する主題シンポジウムやオレオマテリアル部会シンポジウム，ライフサイエンス・産業技術部会シンポジウムを開催した。油脂優秀論文賞受賞講演は9月4日に計画されていたため，残念ながら開催できなかった。例年であれば，実行委員会はヤングフェロー賞，学生奨励賞，ポスター賞を選考するが，年会初日が中止となったため，公平を期して前2者は選考せず，ポスター賞のみ7件選考した。また年会初日に発表予定であった学生の口頭発表は，平成31年1月25日の油化学セミナー（関東支部），平成31年1月29日の関西油化学セミナー（関西支部）において，発表の機会を設けた（東海支部は該当者無し）。

会 期	：平成30年9月4日（火）～6日（木）
会 場	：神戸学院大学有瀬キャンパス
内 容	：①参加者総数 <u>500名</u>
	②講演件数：発表総数 <u>223題</u>
	一般公演： <u>154題</u>
	・口頭講演 89題
	・ポスター 65題
	依頼公演 <u>69題</u>
	・Plenary講演 1題
	・教育講演 1題
	・特別講演 1題
	・招待講演 32題
	・受賞講演 2題
	・主題シンポジウム 5題
	・部会シンポジウム 15題
	・マスターズクラブ講演会 1題
	・油脂優秀論文賞受賞講演 11題

③懇親会

日 時：平成30年9月5日（水）18時～20時
会 場：神戸西神オリエンタルホテル
参加者：約200名

3.1.1.2 日本油化学会誌（論文誌・会員誌）の発行

(1) 「Journal of Oleo Science」誌 第 67 巻第 1 号～12 号総ページ数 1,634 ページ

2001 年に英文誌として再発し地域でオンリーワンの学術誌を目指している。冊子版と電子版を発行して、原著論文はこの 10 年で 80 から 170 件に増え、特集号(6 月, 8 月, 10 月)に関する Editorial Message 2 件, Annual Index を掲載した。6 月・8 月特集 (The 2nd Asian Conference on Oleo Science (ACOS 2017) I, II) には 11 件 (うち総説 6 件), 10 月特集 (Symposium on the Chemistry of Terpenes, Essential Oils and Aromatics (TEAC)) には 12 件 (うち総説 1 件) 掲載した。また, ページ外で, 投稿規定, 入会案内等を掲載した。なお, Impact Factor の値は, 2017 年に 1.182 となり, 5 年平均では 1.349 であった。J-STAGE (電子版) では, 総説は XML 形式でも公開, WEB 公開でのカラー版や電子附属 (Supporting Information) の登載, および早期公開を継続推進している。今後, 英語版 HP の活用, 科研費で構築した研究内容を図解したサマリーの活用などを行い, 効果的に論文紹介を行う予定。

掲載内容	報文	133 件
	ノート・速報	13 件
	総説	24 件

(2) 「オレオサイエンス」誌 第 18 巻 第 1 号～12 号 総ページ数 642 ページ

特集 12 件を企画したほか, 巻頭言, 表彰, 会務, 若手研究者紹介, Topics in Oleo Science, 主催報告, 学会情報, 研究室紹介, 研究備忘録, 書評, 追悼, 寄稿, 会員のひろば, 資料など, 会員に役立つ情報を中心とした会員向けの情報誌として編集した。また, 総説については, 編集委員の査読による一層の質的向上, ならびに図をわかりやすくするために一部カラー印刷を行った。ページ外では, 会告 (年会・JOCS-AOCS ジョイントシンポジウムのプログラムを含む), 目次等を, 340 ページ編集した。第 16 巻の総説類の J-STAGE 公開も実施した。

掲載内容	特集総説・受賞総説	42 件
	若手研究者紹介	4 件
	Topics in Oleo Science	3 件
	総説・トピックス・寄稿・研究備忘録	3 件
	油脂関連情報	43 件 (特許情報はまとめて 1 件と計算)
	その他 (巻頭言, 表彰, 会務, 主催報告, 学会情報, 研究室紹介, 書評, 追悼, 会員のひろば, 資料など)	

3.1.2 人材教育

本部主催の人材育成事業は, 企画・部会統括委員会を中心に企画・実施し, フレッシュマンセミナー (油脂), フレッシュマンセミナー (界面) を行った。フレッシュマンセミナーのテキストには 2009 年 3 月に改訂・刊行した日本油化学会編纂の教本「油脂・脂質の基礎と応用 (改訂第 2 版)」および「界面と界面活性剤 (改訂第 2 版)」を使用した。参加者数は延べ 204 名であった。教本に使用している「油脂・脂質の基礎と応用」については, 栄養学の進展を取り入れた改訂第 3 版を作成し, 平成 31 年 4 月に刊行の予定。フレッシュマンセミナーを受講した中堅の研究者・技術者を対象に, より実践的なセミナーとして, 油脂実践講座, 界面実践講座を開催した。参加者数は延べ 119 名であった。

若手の会委員会は, 8 月にサマースクールとして, 「油化学・界面化学の商品開発につながる最新トピックス」をテーマとした講演会を開催し, 産学官の若手研究者の交流を深めた。

3.1.3 研究の奨励・業績の表彰

本会では, 油脂・脂質, 界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に, 著しい成果をあげた研究者を表彰している。平成 29 年度の主な受賞者を, 本報告の会務・総会の項で紹介した。平成 30 年度も, 若手の研究者を奨励するための日本油化学会進歩賞の授与者を選考した。また, 研究成果

を表彰するため、学会賞、工業技術賞、第 21 回 JOS エディター賞、第 13 回オレオサイエンス賞、第 9 回 JOS ベストオーサー賞等授与者を選考した。また本会の発展や油化学分野の科学・技術の発展に功労のあった会員への功績賞等の選考も実施し、第 65 回定時総会の席上等で表彰する。

3.2 (公2) 評価・試験法の標準化と普及を行う事業

油脂の研究・品質評価において公的な基準となっている『基準油脂分析試験法 2013 年版』に対して、2013 年から 5 年間の分析技術の進歩を反映した基準法 2 項目、推奨法 2 項目、参考法 1 項目を新たに登録し、2018 年増補・改訂版を刊行し、その普及に努めた。本試験法は、オレオサイエンス誌に掲載して会員に紹介した他、一般向けには 11 月に、品質管理や研究開発を担う技術系職員および学生を対象とした第 18 回基準油脂分析試験法セミナーを開催して、日本油化学会が制定した試験法の標準化と普及を図った。セミナー参加者は延べ 72 人であった。

3.3 (公3) 地域における学術の振興と普及を行う事業

各支部による講演会・セミナー等を、例年に倣い開催した。また、各支部主催の講演会・セミナーの企画を充実させるため、幹事会等を下記のとおり開催した。

[支部委員会等の開催]

- ・関東支部 常任幹事会 3 回、幹事会 1 回
- ・東海支部 常任幹事会 3 回、支部合同役員会 1 回、支部将来計画委員会 1 回
- ・関西支部 常任幹事会 1 回、常任幹事会・幹事会合同会議 3 回

[支部の行事開催]

各支部による講演会、セミナー等の行事は、延 11 回開催し、参加者数は延 650 名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延 51 名であった。

・関東支部	開催回数	3 回	参加者数	165 名	講師	18 名
・東海支部	開催回数	3 回	参加者数	182 名	講師	14 名
・関西支部	開催回数	5 回	参加者数	303 名	講師	19 名

このうち、(一財)油脂工業会館共催の地区講演会は、6 月に佐世保市・岡山市(関西支部)、11 月に四日市市(東海支部)、茨城県稲敷郡(関東支部)の 4 ヶ所で開催した。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を行い、地域における学術振興・普及に努めた。

3.4 (公4) 学術専門分野の活性化事業

学術専門分野の活性化については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、ライフサイエンス・産業技術部会およびオレオナノサイエンス部会が活動を展開し、それぞれの専門分野を深耕した。また、マスターズクラブは、学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開した。

オレオマテリアル部会は、第 2 回オレオマテリアル学術交流会を開催した。界面科学部会は、9 月年会で部会シンポジウムを開催した。また、「美の限界を追求する技術」をテーマとした第 65 回界面科学部会秋季セミナーを開催した。その他、東海、九州の各地区セミナー・講演会を開催した。洗浄・洗剤部会は、第 50 回洗浄に関するシンポジウム記念大会を開催した。また、オレオライフサイエンス・産業技術部会は、6 月に「食品の食感とおいしさのメカニズム」と題した部会セミナーを実施した。また「食品安全マネジメント」に焦点をあてた部会ワークショップを 12 月に開催した。マスターズクラブは、関東セミナー(3 回)、東海講演会・談話会、関西見学会・講演会(2 回)を開催した。

各支部及び各専門部会等は、それぞれのリーダーの指導の下、独自に運営を行っているが、企画・部会統括委員長が年 2 回開催する全体会議で情報交換などを行い、必要に応じスケジュール等の調整を行った。

以上の通りであるが、平成 30 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条 第 3 項に規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので、事業報告の附属明細書は作成していない。